

# 図書館だより No. 2

平成 24 年 5 月 25 日発行

いつもより月が 14%大きく、また 30%明るく見えた5月5日のスーパームーン、太陽の中心に月が重なり、太陽がリング状に見える5月21日の金環日食と、5月は天体ショーが多く見られた月でした。

さらに、6月4日には部分月食、6月6日には金星の太陽面通過が見られるそうです。月食は肉眼でも十分に観測が可能ですので、昨年の皆既月食に続き、今年も天候に恵まれるといいですね。

さて、これから関東地方もいよいよ梅雨入りとなります。梅雨時は憂鬱になってしまいがちですが、雨の日こそ室内で存分に読書を楽しんでほしいと思います。読書と疎遠な生活を送っている人も「雨の日じゃ外に出かけるのも億劫だし、本でも読んでみるか！」と本の世界へ出かけてみませんか。こういう本が読みたい！と言ってもらえれば、図書館と一緒に本を探お手伝いもします。この機に、本の楽しさを知ってみてください。

こんな空、見たことありますか\*

440-ハ『すごい夜空のを見つけかた』 林 完次 || 写真・文 草思社

ふと見た空が綺麗でハッとした経験をみなさんもしたことがあるのではないのでしょうか。空は私たちの頭上でいつも色々な表情を見せてくれています。この本では、夜空の写真と共にその魅力が紹介されています。どの写真の空も綺麗ですが、その空を撮った時の様子やどんな時に見られるかが書かれた文章を読むことで、さらに写真の空の美しさを楽しむことができます。

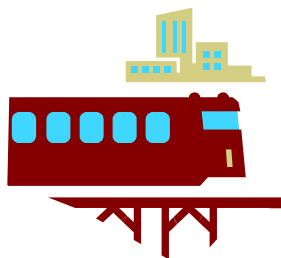
読んだ後には、きっと空を見上げたくなるはず☆その時には、どんな空が広がっているのでしょうか。

雨の日もおでかけ気分\*

913.6-7『阪急電車』 有川 浩 || 著 幻冬舎

関西圏を走る阪急電車。その中でもかなりローカルな今津線。土地勘のない人にとったら、どこからどこを走っているのか、まったく想像もつかないようなこの阪急電車 今津線が物語の舞台です。

各駅ごとの短編集になっていて、主人公となるのは乗り合わせた電車の乗客たち。ほんの数分のその乗車時間に様々なドラマや出会いが生まれ、そして、繋がっていきます。こんなこと、現実にはそうそう起こらないだろう。そう思いながらも、いつか自分もこんな場面に出会えるかもしれない！なんて、これから電車に乗る度にソワソワしてしまいそうです。終点まで各駅の物語をお楽しみください。



## 読書会に参加しませんか

今年も図書館では、読書会を企画しています。「読書会って、おはなし会とは違うの？」と疑問を持っている人もいますので、まずは、読書会についてお話しをしましょう。

読書会は・・・

一冊の本について、参加者全員で語り合う会です。

「このシーン、私はこう思った」

「私も！」

「でも、こんな感じ方もあるよね」

なんて風にみんなで本の内容について熱いトークを交わしながら、楽しい時間を過ごしてもらうのが読書会の目的です。参加資格は、テーマとなった本を読んでおくこと。それさえクリアしていれば、誰でも参加することが出来ます。

読書会は6月5日(火) 16:10より記念館 生徒ホールにて行ないます。今回の読書会での1冊は、重松清さんの「さかあがりの神様」(新潮社)です。参加を希望する人は図書館カウンターへ申し込みにきてください。

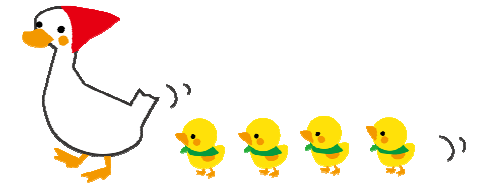
アットホームな雰囲気の中で行っている会なので、「参加してみたいけど、うまく話せるか心配」なんて思っている人も物怖じせずどんどん参加してください。昨年の読書会でも終わった後に「楽しかった」という声をたくさんもらっています。

## 次回のおはなし会は・・・

5月8日(水)に無事、第1回目のおはなし会ぶち☆を終えたチームおはなし会は、これから次回の会に向けて練習を始めます。第1回目に来てくれたみなさん、ありがとうございました。楽しんでいってもらえたでしょうか。

次回のおはなし会は6月21日(木) 16:10より図書館にて開催します。今回から、新メンバーも読み手としてデビューしますので、応援にきてください。また、今回は群読「平家物語」がひさしぶりにプログラムに登場します。臨場感たっぷりの平家物語を楽しんでいってください。その他、今回も絵本や詩、前回からの続きとなる戯曲『ロミオとジュリエット』など、様々な演目を行う予定です。おはなし会を聞いて、読んでみたいと思った作品があれば、ぜひ図書館で本も借りていってくださいね。

読み手の募集も引き続き、行っていますので、「私も何か読んでみたいな」と思っている人は図書館カウンターで声をかけてください。少しでも興味を持てたら、一緒に楽しく活動していきましょう。



## 🍊 1冊の本から繋げよう 🍊

今月の1冊は…

6月といって、思い浮かぶ小説家といえば、やはり太宰治でしょうか。なぜかという、桜桃忌と呼ばれている太宰治の命日が6月19日であるからです。この日は、彼の誕生日でもあります。この時期になると、「今年ももうすぐ桜桃忌か」と太宰治を思い出しますが、みなさんはこの桜桃忌を知っていましたか。その桜桃忌にちなんで「人間失格」、「走れメロス」、「斜陽」など数多くの作品を生み出した太宰治にスポットを当てて1冊を選びました。

### 910.2-ダ 『女が読む太宰治』 筑摩書房編集部 || 編 筑摩書房

太宰治といえば、誰もが知っている日本文学界の有名人。「代表作は？」と聞かれれば、いくつかの作品も答えられるでしょう。しかし、教科書以外でその作品を読んだことがない人、太宰治＝暗いイメージしかない人、など、太宰治初心者さんも多いのではないのでしょうか。そんな人も含め、太宰作品を読むきっかけを掴みたい人に素敵な本があります。

12人の女性が読み解く太宰治。この本を読んでいると、ものすごく太宰作品に興味を惹かれ、「読んでみたい！！」という気持ちになります。どんな顔ぶれが執筆しているのかというと、佐藤江梨子、山崎ナオコーラ、香山リカと、みなさんが知っている女性も多く参加していますので、それぞれの個性豊かな文章を楽しんでほしいです。小説以外の本に読み慣れていない人にも、読みやすく、テンポよくページをめくっていただけます。

みなさんは、どの女性が語る太宰作品に興味を惹かれるでしょうか。

↓ 『女が読む太宰治』 キーワード1  
“グッド・バイ” ～気になる『グッド・バイ』の行方～

### 913.6-1 『バイバイ、ブラックバード』 伊坂 幸太郎 || 著 双葉社

太宰治が最後に書き残したとされる未完の『グッド・バイ』あの物語はどんなラストを迎えるはずだったのでしょうか。伊坂幸太郎は『グッド・バイ』から想像を膨らませ、新たな物語を書いています。

どの女性が一番大切かわからないからと5股をかけていた星野一彦。しかし、星野は“あのバス”に連れて行かれることになってしまった。連れて行かれるのは、2週間後。星野は“あのバス”行きの監視役であり、強烈な個性を持った繭美に婚約者のフリを頼み込み、彼女たちに別れを告げに行く。とんでもない男なのに、どこか憎めない星野はしっかりと彼女たちに別れを告げられるのか。

『グッド・バイ』を読んでから、読むのがやはりおすすめです。

↓ 『女が読む太宰治』 キーワード2  
“女性を虜にする男” ～その魅力はどこからやってくる！？～

### 913.6-7 『わたしの彼女』 青山 七恵 || 著 講談社

太宰治の人生には多くの女性が登場します。そして、今もなお、太宰作品に心を惹かれる多くの女性がいます。

さて、この物語の主人公 鮎太郎もかなりのモテようです。リリー、コドリさん、サッチャン、テンテン、たくさんの女性が鮎太郎に夢中になります。その恋に振り回されるのは、夢中になっている本人たちではなく、なぜかいつも鮎太郎。結構なひどい目にあっているのにも関わらず、鮎太郎が彼女たちを嫌うことはない。それどころか、いつも最後に振られるのは鮎太郎のほうで「どうして、鮎太郎はこんなにモテるのに、幸せになれないんだろう」と首をかしげてしまいます。優しいとも言えるし、お人好しとも言える鮎太郎の性格、みなさんは肯定と否定、どっち派でしょうか。

↓ そして、  
太宰作品を「読んでみたい！！」と思った人には

### 913.6-ダ 『斜陽』 太宰 治 || 著 新潮社

貴族として生まれた私。父が亡くなり、弟の直治は終戦後も行方不明のまま、母とふたりで暮らす。貴族とはいいいながらも、その生活は困窮していくばかりで、やがて伊豆の山荘での暮らしが始まる。慣れない庶民暮らしでボヤ騒ぎを起こしたり、麻薬中毒の体で帰還を果たした弟に手をやいたり、苦勞の絶えない生活が続くが、愚痴ひとつなく「貴族らしさ」を漂わせ、母としての愛情を注いでくれる“お母様”の存在が私の心の支えになっていた。しかし、その母も病に侵され日に日に衰弱していく。やがて、母の死、弟の自殺、そして自らは抜け出せない不倫へと落ちていく。

没落していく貴族の悲劇。今の時代を生きるみなさんはこの『斜陽』を読み、どんな気持ちで本を閉じるでしょうか。